

No.632 (改題592号)
2023年
10月25日(水)

新社会兵庫



週刊 新社会

発行所: 新社会党
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10 三成工業ビル3F
TEL. 03(6380)9960 FAX. 03(6380)9963

新社会党兵庫県本部 神戸市中央区中山手通5丁目2-3 ☎078(361)3613 FAX078(361)3614 毎月第2、第4水曜日発行 購読料月400円(1部200円)郵便振替:01120-7-16805

介護保険の大改悪を許すな
7団体の結集で「兵庫の会」結成

会の結成にあたり準備会を代表してあいさつする山崎貢・熟年者ユニオン会長(10月6日)



介護保険制度の大きな改悪案が今年末に策定されようとしているなか、熟年者ユニオンの呼びかけで結成に向けた2回の準備会を経て、「史上最悪の介護保険改定に反対する兵庫の会」(略称「介護保険の改悪に反対する兵庫の会」)結成のついでが10月6日、神戸市内で開かれた。ついででは、準備会代表のあいさつ、介護保険制度の改悪をめぐる情勢の報告、会の結成と活動方針案の提案、「介護保険とは何か」という問題提起、それらを受けての参加者による質疑討論、3団体からの取り組み報告などが行われ、最後は街頭宣伝や要請署名に全力を上げて取り組むことが確認された。

集いの冒頭、準備会を代表して呼びかけ団体である熟年者ユニオンの山崎貢会長があいさつ。「一昨年には高齢者医療保険の窓口負担2割への引き上げ反対運動を精一杯取り組んだが、今回は介護保険の大きな改悪に反対の声を上げていく。提案する活動の3つの指標にもとづき活動を強めていこう」と訴えた。

確認された3つの指標は、①保険料の引き上げと利用者2割負担の基準の改悪に反対しよう、②要介護1、2の介護保険からの切り離しは許さない、③介護職員の賃金、処遇の改善を実現しよう、の3点。

「宣伝ビラの字はもっと大きく、文章もよりコンパクトにして読みやすいものにならないか」「大軍拡のなか軍事費を削って社会保障に回せという主張を鮮明に打ち出してほしい」「地域では助け合いの名目で住民主体の『ちよいサポート』へのボランティアがなれば強要されている」など多くの意見が出された。

最後に、熟年者ユニオン、安心ネット、神戸ワーカーズユニオン、垂水支部の3つの団体から、介護保険の利用者や介護労働者の労働条件・労働環境などにかかわるそれぞれの取り組みが報告され、今後の活動への決意が表明された。

安心ネット学習会
「親の老後、私の老後は大丈夫?」
パート3 <介護保険の改悪〜来年4月からどう変わる>
●10月29日(日)13時30分~16時
●中央区文化センター1103、1104号室
●参加費500円(1部は総会)

参加者による質疑討論では、「介護保険の利用者や家族の大変な実態をも

いまま、名護市辺野古に建設されようとしている米軍新基地に加え、「台湾有事」に備えた日米両政府による琉球島の軍事要塞化が急ピッチで進められている。琉球処分による沖縄を日本の統治下に収め、いわば「国内植民地」として扱ってきた日本は、いままた、さらに過酷な犠牲を沖縄に押し付けようとしている。

こうした中、沖縄にもっと多くの人たちに関心を持ってもらい、私たちは何をすべきか、運動を広げるにはどうすれば良いか、市民デモHYOGO学習会の「沖縄」シリーズ第5回が、読谷村在住の富樫守さんを講師に9月30日、神戸市内で開かれ、オンラインも含め約40人が参加した。

富樫さんはまず、9月に出された辺野古・最高裁判決に触れ、沖縄だけ

真展や沖縄の音楽、舞踊などいろんなテーマから関わってもらおうことなどが大事だと述べた。学習会では、富樫さんの話を受けて活発に意見交換を行い、今後いろいろなアイデア・企画を検討し、実現するために、小グループ「沖縄ネットワーキングチーム」(仮称)を立ち上げる提案もされた。(中村)

ひょうご 144
描き歩き
小赤壁
(姫路市木場)

前回の大塩の西、山陽電鉄・八家駅から海へと向かうと、木場港から高さ50m、長さ800mにわたって山崖が海へ張り出し、白波が打ち碎ける岩石海岸に出る。この海に沿った木庭山の南斜面一帯が「小赤壁」と呼ばれ、昔、頼山陽がこの地を訪れた際、月夜に船を浮かべて海岸の風光を楽しんだ折、その眺めが中国武漢の南、揚子江中流域にある「三国志」で有名な赤壁に似ていることからここを「小赤壁」と名付けたと言われている。



この木庭山の頂上に小赤壁公園が造られていて、のじぎくや桜の名所として知られるこの山を含めた磯周辺と併せ姫路市の緑の十景に制定されている。



沖繩・読谷村在住の富樫守さんを講師に招き沖繩問題への関心を高める方法などを考えた=9月30日、中央区文化センター

少し前の暑さが思い出せないほどの激しい気温の変化である。朝のウォーキング、空にワロコ雲を見る。どこからかキンモクセイの香り。世間は整理もつかないようなゴタゴタ。ジャーニーズ関連の大騒ぎには、NGリストや黒幕コンサルの響きも。好感度を売りつけてきただけに、驚きも大きいようだが、大企業の株主総会などでは「常識」になっていることである。首相記者会見では、事実上排除扱いの記者も少なくない。▼そこに紛れてと言えは叱られるかもしれないが、国会も始まった。岸田首相には当てはずれかもしれないが、浴びた光は脚光ではなく、逆光だったようだ。かんばしくない支持率が示している。国民の大部分が、岸田の本性をつかんだのだろう。▼我こそ「中国封じ込め」の旗手だと飛び回るかと思えば、国内では物価だ、子育てだ、と八面六臂のフリをする。しかし、これらは総裁、総理の座を維持したいという思いから出ていることを見抜いている。加えて、理想もリーダーシップも備えていないことを国民は見破っている。与党の中でさえ遠心力が潜在している。つむじ風がいつ吹くかという心配である。▼我々に大切なことは、こんな時こそ大地をしっかり踏みしめることである。

水脈
少し前の暑さが思い出せないほどの激しい気温の変化である。朝のウォーキング、空にワロコ雲を見る。どこからかキンモクセイの香り。世間は整理もつかないようなゴタゴタ。ジャーニーズ関連の大騒ぎには、NGリストや黒幕コンサルの響きも。好感度を売りつけてきただけに、驚きも大きいようだが、大企業の株主総会などでは「常識」になっていることである。首相記者会見では、事実上排除扱いの記者も少なくない。▼そこに紛れてと言えは叱られるかもしれないが、国会も始まった。岸田首相には当てはずれかもしれないが、浴びた光は脚光ではなく、逆光だったようだ。かんばしくない支持率が示している。国民の大部分が、岸田の本性をつかんだのだろう。▼我こそ「中国封じ込め」の旗手だと飛び回るかと思えば、国内では物価だ、子育てだ、と八面六臂のフリをする。しかし、これらは総裁、総理の座を維持したいという思いから出ていることを見抜いている。加えて、理想もリーダーシップも備えていないことを国民は見破っている。与党の中でさえ遠心力が潜在している。つむじ風がいつ吹くかという心配である。▼我々に大切なことは、こんな時こそ大地をしっかり踏みしめることである。

王子公園 再整備問題

反対意見、疑問一色 再整備関連都市計画説明会

10・9・10



神戸市が説明した再整備にかかわる都市計画の地区計画(素案)に対して市民から出た声は疑問と反対意見ばかり＝10月10日、動物園ホール

王子公園再整備をめぐる神戸市は、いま2つの市民意見募集を行っている。ひとつは、王子公園再整備基本計画(素案)に対するパブリックコメント、期限は10月31日まで。もう一つは、公園の再整備に関する都市計画の内容と地区計画(素案)に対する意見募集だ。これは、①大学誘致のため建設予定の土地を都市公園の指定から削除(公園の一部を100億円で売却するため)、②過去に計画されたスタジアムの駐車場建設計画(未実施)の廃止、③王子公園地区の地区計画の決定(地域ごとに建物の用途や大きさなどのルールを定めること)、具体的に

は新スタジアムや立体駐車場の建設など)についてのもので、この意見募集の期限も10月31日。神戸市はこの王子公園再整備に関する都市計画の説明会を10月9日に中央区文化ホールで、10日には灘区の動物園ホールで開いた。説明会では、いずれも神戸市の説明に対する賛同の意見は皆無で、逆に、説明内容への強い反対意見と疑問の声が続出し、市民からの異議の表明一色の説明会となった。

共通していたのは、これまでのパブリックコメントを圧倒的に多かった市民の反対意見がまったく反映されず、主権者たる市民との合意なく計画が進められていること、樹木の伐採を含め提示される諸計画に対する疑問への回答がいまなお具体的なでないことなどへの不信だ。

インフォメーション

鈴木エイトさん講演会 「今、統一教会問題を考える。」

10月29日(日) 15時～17時 神戸市立婦人会館「さくら」の間(JR神戸駅・北へ5分) 参加費 前売り(事前申し込み) 800円、当日1

「こわすな!王子公園 市民パレード」

11月18日(土)13時～15時(小雨決行) 三宮・旧花時計前広場集合(ミニ集会) コースIIセンター街を通過してJR元町駅・東まで「こわすな!王子公園 市民パレード」実行委員会を系列を超えての共同行動

改憲の動きをウォッチング

憲法の平和主義はいま崖っぷちに 「死の商人 国家」を許すな 学者ら 共同声明 共同声明は冒頭で、「日本が殺傷武器を輸出することは、『メイド・イン・ジャパン』の武器によって他国の人々が殺傷されるようになることを意味する」と強調。 防衛装備移転三原則の運用指針の見直しをめぐり、自民・公明の与党実務者協議が進められている中で、政府がこれまで禁じられていた殺傷武器の輸出を認める見解を示した。学者、専門家、NGO活動者ら22人が10月3日、殺傷武器の輸出に反対する共同声明を発表した。

声明は、1967年の武器輸出三原則以来掲げてきた「国際紛争を助長しない」という原則を踏みにじるものであると指摘し、また、「1981年、衆参両院は武器輸出三原則の厳格な運用を政府に求めて、全会一致で国会決議を行っている」と強調し、その「国是」を、わずかに12人の与党政治家が密室協議によって覆そうとしている。これは、主権在民とは相容れない

今から来年早々がヤマ場 《王子公園の未来》の行方

が続くとは予期していなかった。かくも長期に、市と市民の拮抗した状態が続いているのはなぜか。 一つは、市がこれまで頑なな態度を延々と崩さなかったこと。そしてもう一つは、市民の側、とくに(自慢になるのを恐れずに言えば)私たちの実行委員会の人たちが市の高い壁にくじけずしつかりと所期の意志を曲げずに堅持してきていること。それが闘いの長期化の遠景を成す。

私たちは「王子公園・市民ミーティング」実行委員会という市民団体を立ち上げ、近隣住民や心ある市民約80人余で、神戸市の計画発表以来運動を続けている。今年の夏には、関西学院に向けて「誘致への応募を取り下げて」という署名運動を取り組み1万2367筆を集め、大学に提出。さらに猛暑の中、王子公園を訪れる親子連れなどから「プールをなくさないで」という208通の市長への手紙が寄せられ、子どもの手で市に提出するアクションとなった。

●到達点

2021年1月に久元喜造市長が「王子公園の一角3・5畝を大学誘致の場とする」と公表して以来、昨年12月に大学公募、今年2月に関西学院が応募し、6月に優先交渉権者に。それらに先立ち、神戸市は、現在の陸上競技場を公園北側に移築、跡地を大学に100億円で売却、プールや相撲場、テニスコート、サブグラウンドを廃止・縮小し、園内の豊富な樹木の伐採などを含む「基本方針」を決めた。もちろん市民はこれらの強引な進め方に対して、パブリックコメント、陳情、署名行動などさまざまな手段を講じて異を唱え、疑問を呈してきた。

私の主張

私たちは「王子公園・市民ミーティング」実行委員会という市民団体を立ち上げ、近隣住民や心ある市民約80人余で、神戸市の計画発表以来運動を続けている。今年の夏には、関西学院に向けて「誘致への応募を取り下げて」という署名運動を取り組み1万2367筆を集め、大学に提出。さらに猛暑の中、王子公園を訪れる親子連れなどから「プールをなくさないで」という208通の市長への手紙が寄せられ、子どもの手で市に提出するアクションとなった。

この運動は、市長が最初に計画を公表して2年半が経つ。正直に言うと、ここまで運動が繰り返されていくことが、市民の側、とくに(自慢になるのを恐れずに言えば)私たちの実行委員会の人たちが市の高い壁にくじけずしつかりと所期の意志を曲げずに堅持してきていること。それが闘いの長期化の遠景を成す。

神戸市は今年9月、「基本方針」を前提とした「基本計画(素案)」「以下「素案」」を広報紙KOBÉに折り込み全市配付した。それ

最近、東京・明治神宮外苑の再開発が大きな話題になっているのはご存じだろう。故・坂本龍一氏の手紙に端を発して、村上春樹、加藤登紀子、そしてサザンオールスターズなど著名人が相次いで開発反対の声や懸念を表明している。その運動の中心人物であるロッシェル・カップさんも、私たちの運動に強い関心を寄せてくれ、8月27日の市民集会にはメッセージを寄せてくれた。来年の都市計画審議会の前には、カップさんを神戸に招きエール交換する企画も進行中だ。

府は5日、大浦湾側の軟弱地盤改良工事を巡る代執行訴訟を福岡高裁那覇支部に提起した。知事に代わって国が承認することが目的。訴状は「20日まで指定される口頭弁論で終結し、速やかに判決がされるべき」と即日結審を主張。まさに、沖繩の民意を圧殺する暴挙だ。(10月11日記)

(中)

全国一斉でメンタル・ハラスメントほっとラインを2日間開設

兵庫では労働3団体が共同で実施

10月10日の「世界メンタルヘルスデー」にあわせ、10月9、10日の2日間、全国一斉の電話相談窓口「メンタル労災相談・ハラスメント対策ほっとライン」が開設された。これは、国家安全衛生センター連絡会議がコミュニティ・ユニオン全国ネットワークの協力のもとに実施したもの。

兵庫では、NPO法人ひょうご労働安全衛生センター、ひょうごユニオン、NPO法人ひょうご働く人の相談室の3団体が、事前に2回のセミナーを開催したうえで共同で実施した。

9日にNHKとサンテレビが報道したこともあり、一時は回線数を上回る電話がかり、2日間も労災申請ができるだろうかといった内容もあり、解決方法を今後引き続き相談していくことになったケースも何件がある。



兵庫で開設された電話窓口には2日間で47件の深刻な相談が寄せられた。10月9日、神戸市中央区・ひょうごユニオン

点で実効性は乏しく、今後の取り組みの強化が求められている。(山西)

維新政治の本質を斯る

富田宏治・関西学院大学教授を講師に
市民と野党の長田共同アクションが講演会



講師の富田宏治さんは維新の「身を切る改革」は新自由主義にほかならないと批判。10月1日、長田区文化センター

市民と野党の長田共同アクションは10月1日、「維新政治の本質を斯る」における維新「躍進」の実態」と題して関西学院大学教授の富田宏治さんの講演会を長田区内で開催した。

富田さんは、「全国で維新躍進」はマスコミがつ

くった虚像で、実際には低い投票率の中で組織的な票割で議員数を獲得しただけだと指摘。維新の会の戦略は、①進出し、②票を固めて、③議席を増やして、票割ができる組織に化けさせるとのことだとも指摘。

さらに、維新政治の3つの大罪として、①熟議としての民主主義の破壊、②へらし・いのち・教育の破壊、③市民の分断とコミュニケーションの破壊、あわせて、憲法・平和の破壊だと批判。

関連でも万博でもカジノでも、大きな利権がうごめいていると指摘。しかも、維新支持層は、自分たちの税金が弱者に使われるのは許せないと考える自己責任論を主張する新自由主義の考え方を支持している層だと分析した。

そして、「維新の躍進」を阻止する力は、厳しい暮らしに追いやられていく市民ひとりひとりに寄り添う話し合いと、暮らしを守る政治に変えていくために投票に行こうという呼びかけだと訴えた。(小城)

神戸で緊急学習会

山口・上関町の「中間貯蔵施設」計画めぐり

中国電力が8月2日に原発から出る使用済み核燃料を一時保管する「中間貯蔵施設」の建設に向けた調査を関西電力と共同で上関町で行う意向を明らかにしてからわずか半月後の18日、西哲夫上関町長は調査受け入れの考えを表明、中国電力にその旨を回答した。

こうした事態のなかで急きょ立ち上げられた「上関に原子力施設はいらない兵庫の会」が10月8日、「上関町の『中間貯蔵施設』計画をどう考えるか」を神戸市内で開いた。冒頭、会の世話人の小野純一さんがあいさつ。

「今回の上関のことを新聞で知り、急きょ5つの脱原発市民グループに声をかけ会を立ち上げることになった。怒りを覚える

新社会党兵庫本部顧問 元加西市議会議長

西村省吾さん逝去

西村省吾さん



西村さんは農民運動などを経て1975年に加西市議に初当選。以降、5期市議を務め、1994年6月から1期、市議会議員を務めた。

党関係では、一貫して党の強化・発展のために尽力、日本社会党時代は長く兵庫本部の農漁民部長を務めたのち、1996年の新社会党結党時93歳だった。

には兵庫本部副委員長に就任し、熱意をもって党活動での指導的役割を担った。

また、大衆運動にも精神的に取り組み、地元の平和運動や農業問題にも熱心に携わり、兵庫農業問題懇話会の設立にかかわって初代会長を務めた。さらに、新社会党関係者を中心とした農業問題全国連絡会の結成にも貢献し、初代会長を務めて全国的な運動の連携を追求してきた。

長男の和平さんは今年退任した前加西市長。

地域ユニオン あちこちあれこれ

本紙1月18日号の当欄で「介護保険制度改善の運動を」の表題で報告したが、以降、熟年者ユニオンでは討論を重ね、こ

のほど熟年者ユニオンが呼びかけ団体となって本号1面に掲載の通り、「介護保険の改善に反対する兵庫の会(略称)の結成の運びとなった。出発時に7団体が結集できたことは、介護保険

介護保険に見る日本の社会保障の貧弱さ

改悪に対する関心が高まり、今後の運動の盛り上がりとして他府県への波及の期待につながる。

この欄では、この間の「裏方よもやま話」を、増大を口実にした保険料

こともあろうが、厚労省等が来年度の第9期保険改訂に向けての報道キャンペーンを行ったと見られ、時々高齢者人口の増大を口実にした保険料

この冊子は、内容の良し悪しは別にして読者の方々にお薦めである、将来に介護保険を利用する時の備えとして一読されるとよい。

今年3月に神戸市のH Pで第9期事業計画策定が公募されているのに驚いた。保険事業の根幹をなすと思われる計画が民間委託とは。市行政の担当者は市職員ではないのかと疑問を持つ

た。計画策定は、前述の冊子作成、計画検討の説明を含めて委託契約金1千万円での公募である。

この手法は他の自治体でも同様に行われているよ

うだ。この国の社会保障の貧弱さの一面を見る思いである。

なお最後に、紙面を借りて訂正とお詫びを。10月6日の「兵庫の会」結成集会で配布した資料「問題提起 介護保険とは何か」の6ページ②の③の要介護5は正しくは、36217単位/月、要支援1は5032単位/月である。

菅沼祥三(熟年者ユニオン)



学習会では山口県現地とオンラインで結び現地からの報告も受けた。10月8日、神戸市中央区

続いて、末田一秀さん(はんげんぱつ新聞編集員)が講演。中間貯蔵施設のしくみ、関電の使用済み核燃料をめぐる事情、核燃料サイクルの問題、今後の輸送ルートや陸揚げ港の問題などを詳しく解説し、この中間貯蔵施設は永久貯蔵施設になる恐れがあると指摘した。

集会は現地とオンラインで結び、現地からは周辺自治体での批判的な反応なども報告された。

若者のひろば

23年間勤めていた「重症心身障がい児者入所施設（以降Aとする）」を退職し、2023年統一自治体選挙に挑みましたが落選しました。

再就職に向けて何度も通ったハローワークでは「在職中に腰痛など体の節々を痛めてしまったので特に腰に優しい業種はないか」「福祉施設でしか勤めたことがないので他業種への興味もある」といった希望を伝えました。しかし、「これまでのキャリアを活かすしか求人がない。あったとしても長距離運転手くらいで腰痛持ちには厳しいと思う」と希望は叶わなかったのですが、福祉事業所にはツテがありました。

放課後等デイサービスを中心としたNPO法人（以降Bとする）に知り合いの理事長がいました。障がいのある息子さんがAに入所する際、私が担当した縁で知り合った方です。選挙の出陣式にもお越し下さったのですが、落選後に「再就職先が決まっていないのでか」と連絡があり面接に伺いました。事業概要や仕事内容の説明後、「サービスマン管理責任者の資格を取得し、事業の中心を担って欲しい」とのごことでしたが「他にも候補がある

るので話を聞いてみたい」と保留しました。

その候補は、障がい者居宅サービス（訪問介護・デイサービス・グループホームなど）を行う社会福祉法人（以降Cとする）です。Aを離職したメンバーで立ち上げた「障がい福祉施設から在宅へ」を理念とした法人で、知り合いが多く在籍していました。「求人はありますか」と問い合わせ

48歳の再就職

すると「年中、人出不足」との返答でした。そこで面接は、労働条件・賃金など具体的な内容で「近い将来事業所を担う存在になって欲しい。すぐにでも来て」とB同様の評価でした。しかし賃金面では「Aでは年収500万円程度だった」と伝えると「400万円が精一杯」と現実を厳しく報告する。Bに結果を報告すると「とてもその金額は無理」との回答



（要弘太）

シネマランド

歴史に葬られていた虐殺事件を映画化

監督 森達也 / 2023年 / 日本 / 137分



年には韓国併合を果たした大日本帝国はさらに第1次世界大戦、シベリア出兵と戦争の道を突き進

「福田村事件」の真相は、永らく歴史の中に埋もれていた。

この映画を鑑賞し多くの人々が「今につながるあやうさ」を感じていた。デマがインターネットを通じて瞬時に拡散される現代への警告となった。歴史的事実を忘却に任せ

福田村事件

1923年の関東大震災から今年で100年が経過した。震災の混乱の中、流言飛語が飛び交い、関東一円の町や村にも伝わっていった。それは、「朝鮮人が略奪や放火」

暗鬼に陥り、「福田村事件」（現・千葉県野田市）の惨劇につながった。関東大震災では10万人の犠牲者が出たが、その中では朝鮮人、中国人、労働組合員、社会主義者

千葉県内では各所に「不正行商人」への注意を喚起するポスターが貼られており、鑑札の所持が不正でないという唯一の証拠だった。

映画の前半は、加害者と被害者と新聞記者の3者の視点で描かれている。時は大正デモクラシーの風潮を受け、大衆が自由を求めさまざまな政治・社会運動が盛り上がりつつあった。女性差別の撤廃、待遇改善を訴える声が大きくなった。全国規模で労働争議、ストライキが多発した。

他方、朝鮮半島の支配権獲得を謀り、日清・日露戦争、そして1910年には韓国併合を果たした大日本帝国はさらに第1次世界大戦、シベリア出兵と戦争の道を突き進

んだ。その結果、庶民の生活は疲弊し、社会の不安は高まる一方であった。それは3者の生きざまに強く影響を与えた。

2000年に至ってようやく香川で「事件真相調査会」、千葉で「事件を心に刻む会」などが発足結成された。さらに2003年、野田市の事件現場に「犠牲者追悼慰霊碑」が建立されたことが地方紙の記事になり、森達也監督の知るところとなった。限られた資料を基に映画製作の企画を暖め、2022年に撮影開始となった。

本棚

「精神の自由」掲げた9人の評伝

森や不忍の池、宮城の濠や芝、愛宕の山などの緑地空間や樹木の意義に気づいたことなどを紹介している。

また、興味深いのは、斎藤雷太郎が1936年に創刊した『土曜日』。片岡千恵蔵や林長二郎（のちの長谷川一夫）といった大物俳優をかかえる京都・松竹の大部屋俳優だった斎藤は、不満が鬱積していた同僚と職場回覧雑誌『サルタンバック』を発行。各自が原稿を書いて月に一度の茶話会で批評し合った。

私たちの周辺で「新たな戦前」という言葉をよく聞くようになった。この国が危うい方向（かつての暗い時代のような）に向かっているからだろう。

本書の「暗い時代」とは、満州事変（1931年）勃発から太平洋戦争終結（1945年）のことである。著者は、本書を書きかけになったのが、それ以前の大正期には、護憲運動があり小作争議や米騒動、労働運動が活発化するなど左翼的な運動が勢いよく展開したのに一転、なぜ日中戦争・太平洋戦争への道に迷い込んでしまったのだろうか。その時、人々は何を考えていたのか、どこが引き返せない岐路だったのだろうか」と気になる

ともした人々を紹介している。

「同調圧力に屈することなく自由な精神を貫いた真の『リベラリスト』たち」として、反軍演説の保守政治家・斎藤隆夫、社会主義運動と女性運動に奔走した山川菊栄、治安維持法案への反対演説後に暗殺された山本宣治、産児制限運動と労働運動に奔走した津久見房子、反ファシズムの文化新聞『土曜日』を発行し続けた斎藤雷太郎と支援者の立野正一、唯物論研究の古在由重、大逆事件の大石誠之

職場の評判が良くてメンバーが20人位まで増えると、喫茶店経営の立野正一の支援を得て働く人々の親睦と向上を支えるための雑誌『京都スタジオ通信』を発行する。最盛時8千部を売ったが、治安維持法下で逮捕者が出たのを機に、題字を『土曜日』に変え、表向きは映画や文学、美術の評論雑誌として継続した。

本書は、「暗い時代」に「精神の自由」を掲げて闘った9人を選び、それぞれの生涯の歩みと人脈をたどることで、節を曲げずに一杯生きた同時代の多くの人びとの評伝になっている。

ちなみに、立野正一の喫茶店「フランスア」は、『土曜日』を毎月200部買取り、斎藤らの活動を支えた。店には辻潤、太宰治、織田作之助なども来ていたという。戦前は戦争に抵抗する拠点であったが、豪華客船のホー

ルをイメージしたというフランスア喫茶室（現）は、今日では国の文化財登録を受けているとかで、京都のガイド本には必ず登場する超有名カフェになっている。（鍋島浩）